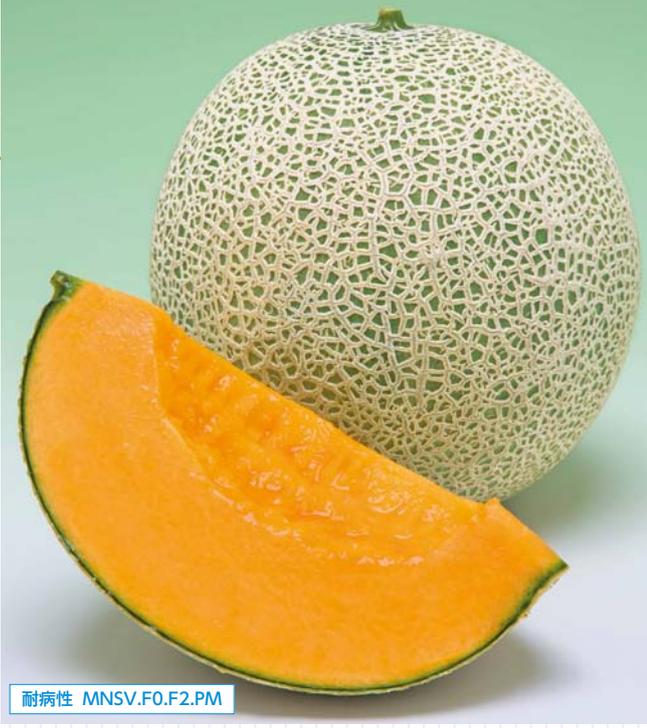




タキイ交配

メロン「レノンハート」

えそ斑点病に耐病性の赤肉メロン！ 低温肥大性にすぐれ、早い作型で能力を発揮！



耐病性 MNSV.F0.F2.PM

「レノンハート」適作型

暖地では4～5月収穫、中間地では4月中旬～6月上旬収穫のハウス栽培の作型が適し、これまで赤肉品種では対応できなかった時期から出荷できるのが魅力です。

「レノンハート」適期表

月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
冷涼地											
中間地											
暖地											

メロン消費低迷が続く中、より品質が安定し、食べごろ期間が長く、当たり外れの少ないメロンが市場で求められています。

一方、生産現場では、昨今の激しい気象変動と連作の影響で栽培が不安定となり、年々病害リスクは高まってきています。中でも拡大傾向のえそ斑点病は、平成24年の臭化メチル剤全廃を受け、耐病性台木の利用が一般的となり、接ぎ木作業やコストの面から、耐病性をもつ穂木品種の開発が期待されてきました。そこで、えそ斑点病に耐病性で、低温肥大性にすぐれ、高品質（肉厚・高糖度）で日もちがよく、食べごろが長続きする品種の育成を進め、このたび赤肉ネットメロン「レノンハート」を新発表することとなりました。

今後、消費回復に向けて、より高品質なメロンを安定供給していくことが重要となる中で、今回新発表の「レノンハート」がその一役を担えればと願っています。

品種特性

① 低温肥大性にすぐれる

寒い時期でも生育が緩慢にならず、低温肥大性にすぐれるため早出し出荷が可能となり、単価の高い早い作型から収量が上がります。

② ネット発生と果ぞろいがよく秀品率が高い

果形は球形で果ぞろいがよく、太めのネットが密に安定して発生するため、秀品率が高くなります。

③ 市場性が高い

「レノン」の肉厚性を引き継ぎ、高糖度で日もち性にすぐれ、食べごろの状態が長く続きます。肉質は緻密でジュシー、なおかつ赤肉特有のカロテン臭が少ないのが特長です。

④ えそ斑点病に耐病性で作りやすい

生育不良や果実の低糖度化、またはス入りなどの症状から、生産・流通の両面で問題となるえそ斑点病(MNS

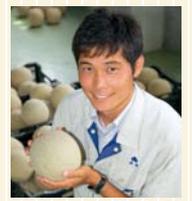
V)に安定した耐病性を示します。加えて接ぎ木栽培では防げなかった地上部(傷口など)からの感染も防げます。そのほか、つる割病(F0・F2)とうどんこ病にも耐病性を示します。また、草勢は強めでつるもちがよく、裂果もしにくいため栽培が安定します。



「レノンハート」は、草勢が強めて収穫期のつるもちがよい。



他社品種



タキイ研究農場 渡邊 剛

栽培ポイント

1 スムーズな活着で 良品出荷へつなげる

メロンの着果節位の雌花は、定植後間もなく分化してくるため、スムーズな活着が良品出荷へつながります。そのため、健全な苗作りをして初期生育を順調に進めることが非常に大切です。「レノンハート」は、苗の生育が早く、若干大苗になりやすい傾向にあるため、温度管理と灌水に注意し、しまった苗作りを心掛けます。

2 施肥量

「レノンハート」はやや草勢が強いですが、特に減肥する必要はありません。肥料は元肥主体の10a当たり成分量でチッソ10〜20kg、リン酸15〜18kg、カリ12〜15kg、完熟堆肥2〜3tを目安に、本圃の肥沃度や前作の残肥に注意して施肥量を決定してください。

3 着果枝の伸び始めに 灌水

交配までに必要な整枝を済ませ、着果枝と雌花の充実を図ることが重要になります。特に「レノンハート」は、着果枝の伸び始めに水を欲しがります。着果節(11〜15節が基本)までの整枝を済ませた段階で、着果枝の伸び始めに少量灌水を行い、がっちりした着果枝(雌花までの距離が20cm程度)で交配を迎えることが重要です。

4 玉肥大と高品質を 実現させる 灌水、換気のポイント

着果枝が弱い場合には、節位を上げて灌水するなどして、草勢が回復した状態で着果させるようにします。

定植〜交配期

「レノンハート」はつる伸びが早いので、蒸し込んだ管理をすることで、地上部と地下部のバランスが崩れて、地上部の生育が走りがちになってしまいます。活着後は極力灌水を控え、昼間の気温は28〜30℃を目安に換気し、締め作りを心掛けます。特に低温期の栽培では、被覆資材の影響から日

照不足になりやすいため、日中はできるだけトンネルやカーテンを開け、少しでも光をとり入れて余計な湿気が抜けるように管理します。

着果〜ネット発生期

交配前からは、やや高めの温度管理にシフトします。着果確認後は灌水を開始し、初期肥大を促します。硬化期に入るまでには交配期よりやや低めの温度管理を心掛け、初期ネットを順調に発生させます。

ネット発生期〜完成期

ネットが全面に回り出したころから灌水を増やし、暖かめの管理で肥大を促します。「レノンハート」は栽培後半にかけても緩やかに肥大が持続するので、果実サイズを見ながら換気調整していきます。肥大が完了するころには換気を強め、灌水も株の状態を見ながら徐々に減らし、登熟に努めます。

5 適熟果収穫に努める

熟期は55〜57日タイプになります。着果枝1枚目の葉が、収穫期よりも数日早く枯れ上がるため、果実の若もぎに注意します。開花後日数と合わせて必ず試し割りを行い、肉質も考慮して適熟果収穫に努めてください。

メロン「レノンハート」栽培特性メモ

最 適 播 種 期	冷涼地	2月〜3月中旬
	中間地	11月〜2月
	暖 地	10月下旬〜12月
耐病性	メロンえそ斑点病、つる割病レース0・レース2、うどんこ病	
肥料の目安	元肥主体で10a当たり成分量で、N10〜20kg、P15〜18kg、K12〜15kg、完熟堆肥2〜3t	
播種基準	畝幅：250cm、条数：1、株間：50〜70cm(地這い栽培・小づる2本仕立て)	

「レノンハート」と「レノン」のリレー出荷

品 種	播種期	収穫期の目安					
		4月	5月	6月	7月	8月	
冷涼地	レノンハート	2月〜3月中旬					
	レノン	3月					
中間地	レノンハート	11月〜2月					
	レノン	12月下旬〜3月上旬					
暖地	レノンハート	10月下旬〜12月					
	レノン	11月中旬〜1月上旬					